

隊に再編整備され、5月末にさつま消防団として発足式が行われたところであります。



さつま町消防団発足式

「防災の関係」であります。が、あらゆる事態を想定した住民自らの防災意識の啓発と自主防災組織の整備を進め、各種の災害や事故等が予想される場合は、可能な限り迅速な情報の収集と提供等を行い、適切な対策が図られるよう防災体制を確立し、町民の皆さんの安全と安心のまちづくりに努めてまいります。

第5

「人々の生活視点から創る環境美化のまち」

「環境問題」であります。私達の日常生活や通常の産業

活動から発生するさまざまな廃棄物は、長年にわたって大気や水・土壌、動植物を循環し、自然環境に大きな影響を与えてきております。

最近の地球温暖化・オゾン層破壊・異常気象などの自然現象は、地球環境の悪化が大きき要因であるとされており、このような地球規模での環境問題の解決に向けた国際的な取り組みが進められており、まさに21世紀は環境の世紀とも言われているところであります。

当地域でもリサイクル活動や水質汚濁防止、ゴミ減量化など、環境保全に対する対策と改善策を進めてきておりますが、長い年月を経て築き上げられてきた生活基盤の改善には、一挙に解決できない課題も数多く残されております。

そのためにも、まず、一人ひとりが環境問題を十分に理解し、環境に負荷を与えない生活に転換していくことが肝要であると存じますので、環境美化を含めた啓発活動や実効性のある行動を町全体で展開できるように検討してまいります。

クリーンセンターとし尿処

理施設の業務につきましても、合併により直営方式となりましたが、旧祁答院町と旧入来町の分は薩摩川内市との間で委託契約を締結し、ゴミ等を引き続き受け入れて業務を行っております。

これらの施設における今後の運営方針等につきましては、結論が出されておりませんが、これまでの経緯や将来の施設運営ということなども踏まえながら、関係団体と十分な協議を進めてまいります。

第6

「住民と行政が協働するまち」

まちづくりを推進していくためには、行政への住民参加が欠かせないと存じますが、計画段階から政策形成過程、事業実施などにつきましても積極的な住民参画を求めながら各種の事案に対する検証作業を行い、住民と行政が共に知恵を出し合い共に協働する、そして地域住民に透明性のある財政運営と町民主役のまちづくりの実現を目指してまいります。

また、国際化や少子高齢化、情報公開と個人情報保護、I

社会の進展、行財政改革など、めまぐるしく変革していく社会情勢の中で複雑・多様化している行政ニーズや地方分権型社会の実現を図るためには、簡素で効率的な行政組織の再構築と行財政改革の積極的な取り組み、民間活力の活用が必要不可欠であると思っております。

新生「さつま町」は、こうした時代の流れの中で、国が示した行政改革の最も大きな取り組みとして、「市町村合併」という形で誕生したまちであります。

大きな改革を成し得たとは言え、長引く景気の低迷と安定成長期に入っている社会経済情勢の中で、税収の減少や地方交付税等の大幅削減により、行政運営の基本となるべき財政状況は、極めて厳しい状況になっております。特に、国の三位一体改革と地方分権の流れのなかで、地方は自主財源の確保と自己決定・自己責任がより強く求められ、また、地方分権型社会の実現に向けて改革の速度・完成度は、ますます緊急かつ高度なものが求められているところであります。

本町の特性を活かした新し

い発想によるオンリーワンのまち、町民満足度の高いまち、合併のモデルとなるような公平感と一体感のあるまちの創造に向けて、思い切った行財政改革と新しいまちづくりに全力を傾注してまいります。

以上、さつま町の初代町長として一期目の所信の概要を申し上げますが、今後におきましても町民の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、所信表明といたします。

井上町長

県町村会長に就任

6月7日、鹿児島市の自治会館で開催された鹿児島県町村会臨時総会で、任期満了に伴う役員改選が行われ、会長に井上町長が就任されました。

その後町長は、「町村会は激変の時期にあります。住民に身近な自治体がいっかりして健全な発展をしなければ日本の未来はありません。浅学非才ですが出来るだけの努力をしたい。」とあいさつしました。